

# 平成31年 飯田市教育委員会4月定例会会議録

---

平成31年 4月12日（金） 15時00分開会

---

## 日程第1 開会

○教育長（代田昭久） 改めまして皆さんこんにちは。ただいまより、平成31年飯田市教育委員会4月定例会を開会したいと思います。

---

## 日程第2 会期の決定

○教育長（代田昭久） 日程の第2 会期の決定、本日の会議、今月の会議、本日1日とさせていただきます。

---

## 日程第3 会議録署名委員の指名

○教育長（代田昭久） 日程第3 会議録署名委員の指名、今月の会議録署名委員、三浦弥生委員をお願いいたします。

◇教育委員（三浦弥生） よろしく申し上げます。

---

## 日程第4 会議録の承認

○教育長（代田昭久） 日程第4 会議録の承認、3月定例会の会議録のほう、ご確認のほうよろしいでしょうか。

（承認の意思確認）

○教育長（代田昭久） はい、それでは、承認ということでよろしく申し上げます。

---

## 日程第5 教育長報告事項

○教育長（代田昭久） 日程第5 教育長報告事項。それでは、今月、A4裏表1枚にまとめましたのでよろしく申し上げます。

まずは、平成31年度が始まったということで、各委員の皆さんには、小学校及び中学校のほうに出向いていただき、ごあいさつのほう本当にありがとうございました。もし、お気づきの点、また、感想等あれば委員の報告のほうでお伝えしていただければなというふうに

思いますのでよろしくお願いします。

また、教育委員会、事務局のほうのメンバーも次長、また、学校教育課長も含めて複数名変わっております。新しい体制になります。委員の皆さんにはまたよろしくお願いいたします。

2番目、今年度の年度当初に新しい取り組みとして教育長講話というものを4月の1・2・3で行いました。これは目的としては、飯田市には8,200名弱の児童生徒、もちろん28校の小中学校があるわけですが、教職員760名が働いているわけです。

その中で、その教職員が果たしてどういうことをやりたいんだと、どういう方向に向かっているんだというのをやはりお互いが力を合わせたり、また、ときには切磋琢磨できたり、そういうふうに進んでいきたいし、また、飯田市の教育ビジョンを直接伝える、また、大事な施策を直接伝える、そんな機会をつくっていかうということで、昨年度半ばから計画していたところでありましてけれども具体的に実施ができたということです。

9つの中学校に関しては、直接お伺いして講話を15分、質疑応答10分、合計約25分、そして、19の小学校では遠隔の授業システムを使って、19校を3回に分けて大型電子黒板に教育委員室が映し出されるということで15分弱の講話を行いました。

内容に関してですけれども、まずは飯田市の教育ビジョンということで、2028年度までの12年間にわたる教育ビジョン、「地育力による 未来をひらく 心豊かな人づくり」、そして特に「心豊かな」という言葉に込められた思いというものをみんなと共有しようということで、その「心豊かな」ということが「自己肯定感を抱き、他者をいたわり、お互いをお互い認め合うと、共に生きている人を育む」ということが柱として位置づけ、「これが「心豊かな人づくり」なんだ」ということをまず共通理解をしていただくために話をしました。

で、この「心豊かなひとづくり」のために、教育委員会で学校を支援していく大きな3つの方向性として、まずは学級授業づくりへの支援をしていかうということで、なぜ学級授業づくりというのが中心になるかということ、学力の向上や体力の向上、不登校対策、特別支援、ICT教育、さまざまな教育施策があるわけですが、ベースになるのは、やはり学級であり、授業であり、こうした土台となる組織やそういったものをつくるのが大事であり、安心・安全な居場所・環境をつくることをまず第1の目的にして、「それをしっかりと教育委員会としては支援していきます」という話をさせていただきました。

その支援する体制としては、専門幹を1名、指導主事を3名、教育支援指導主事16名、この16名は各中学校区に配置されます。その後、教育相談員、就学相談員、家庭相談員と各1名の体制で行っているということを各学校にちゃんと理解していただくように話をし

ました。

で、2番目は、ビジョンの実現のため、これ(2)ですけれども、目標は何にしても、技術的な環境を良くすることも大事だということで、今年度は、留守番電話を飯田市が全小中学校に設置し、夕方19時から朝の7時半まで留守番電話を配備しますと。また、夏休みの学校閉庁日を8月の10日から16日まで設ける。また、時間管理に時間が掛からないようにということでタイムカードの導入。さらには、中学校区に直接行った大きな理由でもあるんですが、部活動を新しい方針のもと1年半掛けて、2020年の9月本格実施に向けて、この方向で行くという話をさせていただきました。

このビジョン実現のために1つ私のほうから伝えたのは、働き方改革というふうな風潮や大きな流れは大事なことではあるんですけれども、時間の短縮だけが目的ではなくて、この働き方改革というのは「教師にしかできない本分やあり方をみんなで考えていくことなんだ」ということで思いを伝えています。

そのためには、ビジョンの実現のために(3)であるわけですけれども、学校の先生たちの間だけで考えてはだめで、その本分を保護者や地域の方々と一緒に考え理解していただくということが大事だと。そして、そのためにはコミュニティスクールの仕組みは非常に有効であり、「めざす子ども像」を各学校で保護者・地域と一緒に考えて、それを共有する中でそれぞれの役割分担をしていく、そんな活動がしっかりできていくようお願いをしました。

ざっくりこんな内容で話をしたわけですけれども、率直な感想としては、「やっぱり直接行ってみるといいなあ」というふうに思いました。その「いいなあ」というのは意見が出るんです。教育長と話すとき「意見出ないかなあ」という気もあつたんですが、10分間の意見で途中で打ち切りというよりは、むしろこちら辺でということで、意見が出なくてというよりは、「その後、またお伝えください」という形で意見出ました。

なので、そういった意味で言うと、「現場の先生方、こういうふうに考えているんだなあ」ということが直接知れたし、そういった意味ではよかったし、また、小学校の先生方からは、これ終わった後聞いたんですけれども、「きれいに出了」と、「音声もよかった」ということで、そういった意味でも直接お話をする機会はよかったんじゃないかなあというふうに思っています。

で、小学校のほうでは意見を吸い上げることは遠隔授業だったのでできなかったんですが、中学校を回る中で、約半分がやっぱり部活動に対する意見が多く寄せられました。全部のところをお伝えすることができないんですが、やはり市教委がこういうふうに明確な方針を出

していただき、勝つことがすべてではないと、学校の教育活動に位置づけるということ、明確にさせていただくことに関しては、幾つかの応援メッセージやありがたいという声はいただきました。ただ、その一方で、部活動の延長としての社会体育、今、保護者が中心となってやっていたりとかいう活動が廃止するということに対しては、やっぱり不安や懸念の意見も多く寄せられました。

要するに、「やめちゃうと余計先生方の負担が増えるのではないかと」と、また、「保護者への理解はどうしていくんだ」という意見もありましたし、また、「この1年半の間に受け皿を考えるとどうあるのは、今現時点ではあるのか」というような詰め寄せられ方をしたので、私自身は、「もちろんアイデアあります」と、「でも、そういったアイデアを先生方と一緒に分厚いものにしていきたいんだ」ということで、そんなことを投げかけました。

また、「突然こういうことが示された」というような意見もあって、これ実は、そういった意味で言うと説明するいい機会だったんだと思うんですが、昨年度1年間、「部活動に対するご意見は教頭会に必ずしてください」というメッセージは伝えて、「この原案自体は教頭会のプロジェクトの原案になっているので、そこはご理解いただいて。唐突に出たものでもなく、学校からの意見を吸い寄せられたものなので」ということは切り返しましたけれども。そういった意味でも、その質問が悪いというよりは、そういったそごがないように進めるということも大事だなあというふうに思いました。

繰り返しになりますが、「1年半掛けて先生方の知恵や意見を聞きながら修正もしていきたい」という話を直接話したらよかったなあというふうに思っています。

もう1つ多かったのは、やっぱりここぞとばかり、飯田市の設備に対する要望を数多くいただきました。ICTに対する校務支援システムや、「もっともっと早くICTの機器をそろえてほしい」という要望も数多くいただきました。

これも大事な機会だったなあというふうには思うんですが、やはり先生方もそうはいって財政という問題があって、お金がどこから出てくるのかと、無尽蔵に出てくる状況ではないという状況もやはり経営感覚を持っていただきたいなあというふうに直接に話をしました。

で、飯田市はもともと大きな都市で、第一中学校から第六、第八という都市ではなくて、それぞれの村立、町立が合わさってできたので、10万人規模の中の小学校数としては数が多いし、それだけ維持管理、また、老朽化も進んでいるという状況は理解していただきながら、もちろんしっかりとサポートはしたいんだけど、そんな状況をしっかりと伝える機会はできたかなというふうに思っています。

最後の感想になりますけれども、これは教育委員会全体の課題だなあというふうに思ったのが、思った以上に教育委員会が思っていることは伝わっていないなあというふうに、伝わりにくいな思いました。

今回、ネット中継をやったわけですがけれども、牧指導主事がリハーサルまでやって確認したにも関わらず、なかなか当日接続できないとか、開通しないとか、「細かいところの指示も伝わりにくいんだなあ」というのももちろんありましたし、また、改めて「初めて聞く」というような、これは昨年度の2月、3月の校長会で、教頭会で伝えていることにも関わらず、初めて聞くような反応もすごくあったりして、いずれにしろ我々のほうでそれは伝わっていない側ではなくて、ちゃんとしたこちら側が伝える努力と工夫というのはもっともっと必要だなあと。言えばわかっているというのは、やっぱり傲慢さもあるんだろうなあというふうに思って、そんなのは今回も非常に教訓になりましたので、「教育委員会としての大きな課題をいただいたなあ」というふうに思いました。

3番目になります。すみません、3番目で、「学校の支援体制を強化しました」ということで、先ほどお伝えをしましたけれども、今年度、新たに指導主事3名ということの体制で、一昨年の中田清一指導主事、昨年度、牧指導主事、そして、今年度から小学校の英語を中心に塩澤指導主事という形で3名の体制を敷いています。

で、学校教育専門幹ということで、学校現場に精通された方を4名、県からの派遣という形でいただいています。これこそまさに10万都市では十分な数になってきたかなあというふうには思っています。

ですので、しっかりと先ほど言いましたように小規模が多い学校だと、どうしても授業づくりが1人だけになってしまう。相談する先生方が違ってしまうということがありますので、研究授業に行っても少し厳しいことを言うだけではなくて、授業づくりの面から指導主事の先生には関わっていただきたいなあとなあというふうに思っています。

また、教育支援指導主事の先生方ですが、ごらんのとおりの16名が学校現場に張り付き、その相談員として3名の方々がいらっしゃいます。

下の中島先生と岩瀬先生ですが、こちらのほうは、いわゆる教育委員会ではない、所属ではない子育て支援課の家庭応援センターのほうに配属しながら、月に1回の会議には必ず参加をして、実際に今大変多くなっている虐待の問題や家庭での問題も教育委員会できちんと共有できるようにという体制で、月1回、この16名プラス3名の相談員の方々と連絡取りながら、学校をサポートする体制を今年度スタートさせていますので、委員の皆さんにもご承知置きのほどをよろしく願いいたします。私のほうからは以上です。

何かご質問等あればよろしくお願ひいたします。

よろしいでしょうか。

(発言する者なし)

○教育長(代田昭久) はい、それではお願ひいたします。

---

## 日程第6 議案審議

○教育長(代田昭久) 続きまして、日程第6 議案審議。今月の議案審議6件ありますのでよろしくお願ひいたします。

---

### 議案第15号 飯田市立小・中学校職員服務規程の一部を改正する訓令の制定について

○教育長(代田昭久) まず、議案第15号、「飯田市立小・中学校職員服務規程の一部を改正する訓令の制定について」お願ひします。

桑原学校教育課長、お願ひします。

◎学校教育課長(桑原 隆) それでは議案第15号についてご説明申し上げます。

議案第15号の新旧対照表でご説明申し上げますので、次のページ、裏面をごらんいただければと思います。「飯田市立小・中学校職員服務規程新旧対照表」でございますが、右側の現行の部分の第2条(1)、第1号の部分ですけれども、教育職員の定義を「長野県学校職員の給与に関する条例の第2条第1項第6号に掲げる職員」というふうに定めておりますけれども、長野県学校職員の給与に関する条例が一部改正されまして、下段にお示ししたとおり教職員を定義している条項が、第2条の(5)、第5号の部分に改正されましたので、上段に戻っていただいて左側の改正案でございますけれども、第2条第1項の下線部分のところ、第5号に改めたいとするものでございます。

前のページ、議案に戻っていただきまして、附則につきましては、施行日を平成31年4月1日からというふうにしたいところでございます。

以上でございます。よろしくお願ひいたします。

○教育長(代田昭久) ありがとうございます。今、規程の一部変更・改正についての説明がありましたけれども、ご質問等ありますでしょうか。

(発言する者なし)

○教育長(代田昭久) よろしいでしょうか。

(賛意を表す者あり)

○教育長(代田昭久) はい、それでは、承認ということでよろしくお願ひいたします。

---

## 議案第16号 飯田市美術博物館条例施行規則の一部を改正する規則の制定について

○教育長（代田昭久） 続きまして議案第16号「飯田市美術博物館条例施行規則の一部を改正する規則の制定について」、お願いいたします。

池戸美術博物館副館長、お願いします。

◎飯田市美術博物館副館長（池戸通徳） はい。それでは次のページ、議案第16号をご説明いたします。本案は「飯田市美術博物館条例施行規則の一部を改正する規則の制定について」でございます。

まず、目的でございますが、美術博物館の資料の取り扱いに関する事務を改善して適正な運用をするためでございます。

説明は2段階になりまして、まずはこのお手元の資料によって、そして、後半には前月の定例会協議会で説明した内容をもう一度ちょっと要点だけ繰り返して説明するという2段階ということであります。

初めに、次のページを開いていただきまして、新旧対照表がございますのでご確認をいただきたいと思っております。現行13条を削り、12条を13条にするということと、新しい改正後におきましては、特別な利用ということで12条を入れるというものであります。

12条は特別な利用ということでございまして、「備品、博物館資料又は展示品に触れ、又は模写をし、若しくは撮影しようとする者は、教育委員会が別に定める様式を提出することにより、教育委員会に申請しなければならない」という文の内容を入れたというものでございます。

で、これにつきましては経過があります。実は、美術博物館の資料取扱要綱、これ教育委員会の告示でございましたが、資料の取り扱いについて定めていますけれども、現行の運用について、特に寄附において、事務取扱を改善する必要があるということで、検討・見直しを行いました。併せて、地方自治法及び地方教育行政法の規定によって、教育委員会が掌握する事務に係る契約であっても、その契約権限が市長になるということで指導がございまして、現行の教育委員会告示の資料取扱要綱は廃止して、新たに市長部局にて要綱を新規に制定するということが適当だろうということをお文書法規係のほうから指導いただきました。

本案につきましては、美術博物館条例施行規則の一部改正ですから、そこしか今は見えていない状況ではありますが、背景には美術博物館資料取扱要綱の改廃があるというところがポイントの1点。

そして、今回、その特別利用だけこの施行規則に入れるということにつきましては、美術

博物館の資料取扱要綱、今度、市長部局でつくる取扱要綱の中に寄附の受納、寄託、短期の借り受け、貸し出し、この4点についてはそちらに定め、特別な利用につきましては、これは美術博物館条例第12条2項の規程に基づく資料等の特別な利用を認める行政処分性を有するものと判断しまして、こちらに改正をして新たに加えるということで掲載するものがございます。

附則は施行日を定めるものとなります。

説明は以上です。よろしくお願いいたします。

○教育長（代田昭久） ありがとうございます。

ただいまの説明に関して、何か質問ご意見等がありますでしょうか。

（発言する者なし）

○教育長（代田昭久） よろしいでしょうか。

（発言する者なし）

○教育長（代田昭久） それでは、議案第16号、承認ということでよろしくお願いいたします。

---

#### **議案第17号 共同調理場管理者の任命について**

○教育長（代田昭久） 続きまして、議案第17号、「共同調理場管理者の任命について」、お願いします。

桑原学校教育課長、お願いします。

◎学校教育課長（桑原 隆） はい。それでは、議案第17号、「共同調理場管理者の任命について」でございます。

学校給食共同調理場管理規則の第3条で、共同調理場に管理者を置くという規程がされております。同規則第2条、第3条第2項により、「管理者は、教育委員会が任命すること」というように規定をされております。

共同調理場の管理者につきましては、丸山共同調理場は丸山小学校長、矢高共同調理場は鼎小学校長、竜峡共同調理場は龍江小学校長、それから、南信濃給食センターは遠山中学校長をそれぞれ任命をしています。

校長が異動するごとに任命が必要ということでございまして、今回、竜峡共同調理場と南信濃給食センターの管理者につきまして、表にお示ししたとおりご提案するものがございます。

任期につきましては、4月1日からというふうにしたいものがございます。

以上でございます。よろしくお願いいたします。



○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございました。

ただいまの説明に関して、何かご意見ご質問等ありますでしょうか。

（発言する者なし）

○教育長（代田昭久） よろしいでしょうか。

（賛意を表す者あり）

○教育長（代田昭久） それでは、承認ということでよろしくお願いいたします。

---

### **議案第18号 学校運営協議会委員の任命について**

○教育長（代田昭久） 続きまして、議案第18号、「学校運営協議会委員の任命について」お願いいたします。

桑原学校教育課長、お願いします。

◎学校教育課長（桑原 隆） 議案第18号、「学校運営協議会の任命について」ご説明を申し上げます。

平成31年度学校運営協議会委員として、各学校長から推薦がありましたので、飯田市学校運営協議会規則第7条第1項の規定によりまして任命いたしたくご提案をさせていただきます。

任期は、同規則第2条第1項の規定で1年間というふうになります。

各学校の学校運営協議会委員は、下記の一覧表のとおりでございます。

学校運営協議会は、丸山小学校と飯田西中学校、それから、鼎小学校と鼎中学校につきましては、それぞれ1つの学校運営協議会となっているほかは学校ごとに設置をされているという状況でございます。

規則では、学校運営協議会ごとの委員の人数の規定はございません。学校ごとの委員の人数につきましては、左側に記載のとおりでございます。最小では、追手町小学校の7人、それから、最大では、3ページにもありますが竜東中学校の23名という状況で、その数の委員の推薦がありました。

参考までに、男女別では男性が257名、女性が80人、率にしますと23.7%という状況。それから、再任・新任の関係では、再任が187人、新任が150人ということで、再任を率にいたしますと55.5%という状況でございます。

以上でございます。よろしくお願いいたします。

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございます。

ただいまの説明に関して、何かご意見ご質問等ありますでしょうか。

(発言する者なし)

○教育長(代田昭久) よろしいでしょうか。

(発言する者なし)

○教育長(代田昭久) それでは、承認ということでよろしく願いいたします。

---

### 議案第19号 飯田市公民館長の任命について

○教育長(代田昭久) 続きまして、議案第19号、「飯田市公民館館長の任命について」お願いいたします。

秦野市公民館副館長、お願いします。

◎飯田市公民館副館長(秦野高彦) 議案第19号をごらんください。

本議案は、飯田市公民館長の任期が満了となるため、社会教育法第28条により、教育委員会の任命を求めるものでございます。

館長の任期につきましては、飯田市公民館条例第4条第2項により2年と定められており、2021年3月31日までとしたいとするものです。

任命をお願いします館長は、飯田市座光寺3784番地4、塩澤哲夫氏です。

よろしく願いいたします。

○教育長(代田昭久) はい、ありがとうございました。

ただいま公民館長の任命についての説明がありましたけれども、ご意見ご質問等ありますでしょうか。

(発言する者なし)

○教育長(代田昭久) よろしいでしょうか。

(発言する者なし)

○教育長(代田昭久) それでは、承認ということでよろしく願いいたします。

---

### 議案第20号 飯田市文化財の指定について

○教育長(代田昭久) 続きまして、議案第20号、「飯田市文化財の指定について」お願いいたします。

馬場文化財担当課長、お願いします。

◎文化財担当課長(馬場保之) それでは議案第20号についてご説明申し上げます。

本案は、「飯田市文化財の指定について」でございまして、飯田市文化財保護条例第2条の規定により、下記の物件を飯田市有形文化財として指定するものでございます。

先に説明のほうをさせていただきますが、1ページをごらんください。平成31年3月8日開催の平成30年度第3回飯田市文化財審議委員会におきまして審議の結果、龍江大平薬師如来立像について、「飯田市有形文化財として指定することが適当である」という旨の答申をいただきました。

1枚おめくりください。指定の理由ですけれども、まず飯田・下伊那でも数少ない平安時代の仏像である。龍江大平薬師如来立像は、その制作技法等から平安時代の仏像と判断される。また、研究者によれば10世紀ごろの制作と見る向きもあり、飯田・下伊那でも最古級の仏像の1つとして重要であると。

それから、(2)としまして、独特な制作背景が想定される仏像であるということ。本立像につきましては、生命感にあふれる腹部の重厚な趣、螺髪 of 作出の方法、像のゆがみや干割れ、荒彫り風の表現など、制作にあたって用材に過度に手を加えず、原木そのものの面影を残そうとする配慮が見られる。こうした特徴から、用材に靈性を供えた神木が選ばれ、その化身となるよう制作された背景が想定される。このような制作背景を持つ仏像は県内でも数少なく貴重であるということ。

議案書のほうへお進みいただきまして、指定する物件の名称でございますけれども、龍江大平薬師如来立像。指定する物件の所在地については記載のとおりです。所有者の名称及び所在地についても記載のとおりでございます。

指定の根拠及び指定の種別につきましては、飯田市文化財保護条例施行規則別表中の「飯田市有形文化財2彫刻」のうち、「この地方の絵画彫刻史上特に意義のある資料となるもの」に該当するというものでございます。

以上、よろしくご審議のほどお願いいたします。

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございました。

ただいまの説明に関して、何か質問ご意見等ありますでしょうか。

（発言する者なし）

○教育長（代田昭久） よろしいでしょうか。

（発言する者なし）

○教育長（代田昭久） はい、それでは、議案第20号、承認ということでよろしく願います。

以上、議案審議を終了させていただきます。

---

## 日程第7 協議事項

## (1)「5つのアクション」の取り組みについて

○教育長（代田昭久） 続きまして、日程第7 協議事項、今月の協議事項として、「5つのアクション」の取り組みについて協議をしたいと思います。

それでは、牧原教育支援指導主事、お願いいたします。

◎教育支援指導主事（牧原 雅） はい、それでは、資料のNo.1をごらんいただきたいと思います。先ほども少し触れさせていただきましたが、『5つのアクション』の重点と新規の取り組みについて」ということでございます。

次のページに、今までの「5つのアクション」、5つの視点が書かれております。本年度は、その5つの中の3つの点について重点を置きたいという提案でございます。

まず1点目は、体験学習活動の実施ということで、今まで農業体験が中心の体験活動でございました。そういった点から、子どもたちの大変広いニーズに応えながらということで、夏体験活動ということを新規の事業として考えております。

目的としては、「うまく学校や社会につながるができなかつたり、自分に自信が持てない児童生徒たちに、一歩踏み出すきっかけづくりを行う」ということ、「学校とはちがう場所や活動を通して、持ち味やよさのある自分を見つけ出し、明るく笑顔ですごせる児童生徒の育成に努める」ということです。

期日、8月の8日、夏休み中に予定しております。場所は遠山郷、それからエス・バードか、その他の施設。

内容といたしましては、プラン1は自然体験型の活動、プラン2は工作体験型の活動を考えております。

参加者は、小中学生に在籍する目的に合った児童生徒ということであります。

その他、場所、あるいは内容につきましては、より良くするために今現在も検討中がございます。

各プランの中に幾つかの講座を設定いたしまして、個々の幅広い興味関心に対応したいというふうに考えております。先ほども触れました遠山郷の地元の方々にご協力をいただいて、講師等お手伝いをいただくような計画でおります。この活動から今後の子どもの居場所づくりにつなげていきたいと、これも先ほど申し上げたとおりということであります。

続いて、カウンセリングマインド研修会の実施ということであります。

今までカウンセリングを中心にした研修会を進めてまいりました。その点を今までのカウンセリングマインドという重点を置いた研修から、研修内容の幅を広げて実施したいということであります。学校現場の実態から、学校生活の土台となる学級づくりの強化につながる

研修を行っていききたいということでもあります。

例年、夏休み2日間程度の開催で予定をしておりましたので、本年度も7月の26・31日に開催を予定しております。内容、講師について、今現在選定中でございます。

3つ目、連携事業の効果的な実践ということで、本年度、SSW、スクールソーシャルワーカーとの連携を深めた取り組みを進めてまいりたいというふうに思います。

先ほどの不登校等の話にも出てまいりましたように、大変複雑なご家庭が多くなってまいりました。私ども子育て支援ネットワーク実務者会議ということで、各学校の支援を必要とする子どもさん方について検討をしておるわけですが、今現在おおよそ100名、飯田市中で100名の子どもさんたちの検討を進めております。そういった家庭環境に課題のあるご家庭の子どもさん方に、基本的な生活習慣がつかないために不登校になったり、あるいは、もう毎日遅刻をしてまいったりという子どもさん方が増えてきているということでもあります。

そこへ学校はもちろん支援をしていくわけですが、スクールソーシャルワーカーという立場で、今までは学校側からスクールソーシャルワーカー、南信教育事務所飯田事務所に配置をされているスクールソーシャルワーカーに学校現場が依頼をして初めて動いていただいていたわけですが、ぜひとも飯田市の子どもたちを重点的に見ていただくようなシステムをつくりたいということでもあります。

ポツの1つ目が、南信教育事務所飯田事務所のSSWに飯田市の主担当をお願いをしてまいりたいということでもあります。

2つ目が、子どもサポート会議という教育支援指導主事、あるいは家庭児童相談員、それから、民間の団体の方々の参加により開催している会議がございます。その会議にSSWに参加をしていただくように依頼をしてまいりたい。そして、飯田市の子どもたちの現状を把握をしていただくとともに課題の共有を図っていただき、芽が小さいうちに家庭のほうへ支援に入っていただく、そういったシステムをつくってまいりたいということでもあります。それから、各種研修会の講師としても参画といった点でもお願いをしていきたいと思っております。

そこに書かれてはおりませんが、SSWの飯田市への専任の配置について、要望を既にしていっているところがございますが、これにつきましても今後も配置となるよう努めてまいりたいというふうに思っております。

以上、重点と新規の取り組みについてご説明させていただきました。

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございました。

協議事項ですので、ぜひいろんな角度から、この今飯田市における5つのアクションの施

策についてのご意見いただきたいなあというふうに思いますが。

私のほうから少し補足としては、この5つのアクションが昨年でちょうど10年経ちました。スタート当時から、やっぱり社会的な環境や子どもたちの不登校になる理由も変わっている。また、対応策も文部科学省のほうで不登校の見方とかとらえ方も変わってきているし、そういった状況の中で、この5つのアクションそのものを見直していこうという形での取り組みです。

ですので、本年度掛けて、そもそもこういう5つのアクションのあり方も検討したいとは思いますが、その中でも今年度、昨年度から引き続けている具体的には体験活動の充実やカウンセリングマインドの研修、連携事業を効果的にする、この3つを取り出して強化していこうというのが流れですので、これ以外の施策もあればもちろん検討していきたいと思いますし、そんな1年にしたいというのが大きなテーマで、この年度当初に発表いただいたということになります。ですので、ぜひまたいろいろ意見いただければなと思います。

私のほうから、北澤教育長職務代理はまさに統括の立場でこの5つのアクションの体験活動を促進していただいていたので、その体験活動の実態や、またこの良さがあれば、どんな活動を実際にしていて、どんなふうに子どもたちが変わっていくのか、ちょっと提示できれば、またお話していただければと思いますがいかがでしょうか。

◇教育長職務代理者（北澤正光） 結論から言うと、5つの柱の中でもこの3つに重点を置いて取り組むという方向はとてもいいと思います。中でも体験学習活動の部分で、今まで具体的には千代の「ふれあい農園おおた」の太田さんが非常に積極的に関わってくださって、そのおかげで助けていただいたお子さんたちも随分たくさんいます。

それぞれお子さんの相性や適性があって、市の中央公民館の3階にある「FreeWing」であっても、ちょっと行きづらいというようなお子さんを、ふれあい農園の大田さんのほうへ上手につなげていって、体験をさせてもらうことで救われたお子さんたちもいるということです。

さまざまなタイプのお子さんがある中、かかわり続けてきて難しいと思うのは、一番上の目的のところの2行目に、「一步踏み出すきっかけづくりを行う」このきっかけの部分なんです。いろんな活動、メニューを用意しても、結局その一步目をいかに踏み出させるか、一步そこに出してくれると何か生まれるのですが、その一步目をどうやってつなげるかということところがとっても難しいなあと思いながら進めていました。

千代の太田さんのところも、「この日にお願いします」と言って、本人もその日までは「行きます」と言っていながら、結局その日の朝迎えに行くと「やっぱり出られない」と言う。

その日になって急遽「ちょっとすみません、せっかくお約束したのですが行かれなくなってしまいました」といってご連絡するようなことが何回もありました。それでも太田さんのほうは「いいよ、いいよ、また来られるときでいいよ」といつも温かく返していただきました。そのかわりに行けたときには、まず抱きしめてほおずりして、「よく来たなあ」とやりながら本当にウェルカムで迎えていただくということの中で改善していったお子さんたちが何人もいます。ですからこの企画はとても良いと思います。どういうことをつくっても、結局その小さな一歩を踏み出すところをどうつくるかというのが一番ポイントだと思っています。

体験活動については、以上です。

○教育長（代田昭久） 牧原統括のほうで、今、小さな一歩を踏み出すような何か工夫や手立てをもし考えていればお願いします。

◎教育支援指導主事（牧原 雅） 今、お話にあった点は、私どもの教育支援指導主事の会議でもやはりやっぱり話題になりまして、その一歩、当日は、最後は本人の決断に任せるんだということではあるんですけども、それまでに、まず1つは、この教育支援指導主事をこれだけのメンバーを中学校区に配置をさせていただいているというのはなかなかほかの地区ではないものであります。

その教育支援指導主事と子どもとの人間関係、ここのつながりの中で心の準備を長時間かけてさせてあげたいというのが1点。それから、もう1つは、地域の中に保護者の会等があります。やっぱりお父さんお母さん方にまず理解をしていただくというのが非常に重要だと思っていますので、早めにこの計画をきちんと作り上げて、チラシも作って、そういった会でまずはお父さんお母さん方にご理解をいただいて、その上で、もう状況によっては親子での参加もオーケーというくらいの形で考えつつ、そういったステップを踏んで、最終的には子どもの判断を無理やりということにはならないようにしていきたいというようなことを今現在は考えております。

以上です。

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございます。

◇教育長職務代理者（北澤正光） さっき言おうと思って、ちょっとためらっていたことがあります。

そのことを牧原統括が触れていたのが発言させてもらいます。親子での参加も場合によつたら認めていくという、実はそこはすごくポイントになると思っています。千代のおおた農園さんへお願いしていたときにも、親子で参加いただいたというケースもいっぱいあって、学校に出られなかったりしているお子さんと長い時間過ごしてくる中で、親御さんもある意味

疲れていると言いますか、気持ちが落ち込んでいるというケースもいっぱいありました。

それで、親子で一緒に行くことで、お子さんのほうもちょっと安心して行けて、活動しているうちに子どもよりも保護者のほうが、例えば太田さんとの触れ合いの中で元気を取り戻して、「こんなふうだったらもっと早く来ればよかった」というようなケースも随分たくさんありました。

体験活動をさせてくれる太田さんが非常に温かく広い心で受け入れてくださるので、事前に状況をお知らせしておく、例えば冬だといろりに火をおこして五平餅を焼く用意がしてあって、窓の外では雪がピューッと吹いている中、いろりで五平餅を焼きながら一緒にお話するみたいな場面設定で、「お母さん苦勞したねえ」なんていう話をしながらやっていくうちに親御さんの心が和んで、その雰囲気の中で子どもさんも元気が出てくるというような場面を幾つか見ているので、「場合によったら保護者も同伴での参加もいいですよ」というような企画があると、これはこれでもっともよい企画になると思います。

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございます。

ほかいかがでしょうか。

はい、伊藤教育委員、お願いします。

◇教育委員（伊藤 昇） 今、体験学習活動のことですが、あくまでもこれ新規なんですね、いろいろ今知恵を絞っていろいろ考えてくださっているの、あまり何も異論はあるわけじゃないですが、そういう方向でいいと思いますし、また、その結果をまた知った上で、また次年度に生かしてそういうことになるかと思えます。

カウンセリングマインドの研修会のことなんですが、今までカウンセリングマインド研修会やっぴまして、今度学級づくりの強化ということもやりたいというんですけど、そこら辺ちょっと内容をお聞きしたいんですけども、学級づくりの大切さというのは何となくわかるような気がするんですが、限られた時間の中に別にやるんですか、それとも限られた時間の中を1部2部に分けてやるのか。

ちょっとその辺の確認をしたいです、研修の仕方を。

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございます。

牧原統括お願いします。

◎教育支援指導主事（牧原 雅） 今の構想でございますけれども、このカウンセリングマインド研修会を、まず研修会の変更をしていきたいという点について、ちょっとご説明させていただくんですが、不登校の子どもさんたちの原因には3つの大きな問題点があるというふうに出ています。



1つ目は、人間関係づくりでのうまくいかないということでございます。もう1つは、やっぱり学力不振、勉強のほうの関係でつまずいてしまっているということでございます。それともう1つが家庭環境に課題があるという、これが3本の大きな柱、課題の大きな柱でございます。

そういった点で、この人間関係づくり、先ほど教育長からの話もありますように、飯田市でも互いを認め合える子どもたちの育成、このことがですね、学校、あるいは学級の中での居心地の良さをつくってあげたいということでもあります。

ですので、そういった視点で学級づくりについての研修をして、先生方に学級運営能力を高めていただく場をつくっていききたいということなんです。それはこの講習会だけですべてを終わらせようと思っております。この講習会のほうでは、今まで、私たち教員ですので学級運営とか学級経営とか言うんですが、これは先輩の姿を見て、まあ徒弟制度じゃないですけれども、見て学べというような形が非常に多かったんですが、それをやっぱりもっと学問としてきちんと学んでいく必要はありはしないかということでもあります。

ですので、大学等々専門の講師をお呼びして、まずは学級運営なる基礎・基本について、講座のような形で学ぶ場をつくりたいというところがまず1点であります。

それ以外に、やっぱり現場へ入って困っている先生方に支援をしていかなくちゃいけないというふうに考えておりますので、この点については、私のこの立場の不登校のというだけではなくて、教育支援指導主事、それから、今回先ほど教育長の話にありました指導主事が学校現場のほうへ入らせていただいて、担任の先生と膝を交えてお困りの点をお聞きして、具体的に支援をするというようなことも、この5つのアクションではないんですが進めてまいりたいというふうに考えております。

そんなところでよろしいでしょうか。

◇教育委員(伊藤 昇) ですから、カウンセリングマインド研修会というのは今まであったのが、そのまた別立てというんですかね、学級づくりの強化ということで、そういった1つの研修会なりそういう方向性を持ちたいということですね。

◎教育指導支援主事(牧原 雅) はい、カウンセリングマインド研修というカウンセリングに関することを中心にやるという研修から、ここにありますように教育支援研修ということで、もうちょっと広い形で研修を行うような形に名称を変えていくと。

で、中身はカウンセリングの勉強だけじゃなくて、学級を運営する方法やそういった支援の仕方についての学習の場を、今までになかった部分を設定していくというようなことでもあります。

◇教育委員（伊藤 昇） はい、わかりました。

○教育長（代田昭久） 三浦教育委員、お願いします。

◇教育委員（三浦弥生） はい、お願いします。

夏体験活動のことについてです。

こういった児童生徒の皆さんたちが成功体験を積み重ねて自信をつけていくというこういう体験の場を提供するというのは本当大切なことだろうと思いますし、内容を拝見しますと本当、遠山郷であったり、エス・バードであったり、今飯田の持つ財産をきちんと活用をされているというところでは、本当に良いなあということを感じました。こういったものが本当に自信をつけるきっかけになればと本当に思いました。

で、もう1つ私が感想で思ったのは、内容を拝見しますと、釣りや川遊びにジビエ、あとロケットや飛行機づくりといったような形で、小学生だったり、男の子が何か楽しめるものというイメージを持ちます。思春期を前にした女の子、生徒さんたちというと、また興味を持って「じゃあ行ってみようか」という内容がこの中に女の子たち含まれているのかなと思うとどうかなというところがあります。

飯田市には水引といったそういった伝統のものもございます。そういったもので自分がちょっとアクセサリを作ってみるだとか、そういった児童生徒さんのこういった年齢に合わせて、その子たちが興味を持てるような、ちょっと女の子向きなそんなようなものも含まれていて、ちょっと行きたくなるかな、行ったらできて成功体験を重ねて、社会の適応であるとか、人間関係の適応であるとか、そういったところのきっかけになればかなとそんなようなところも感じました。

以上です。

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございました。

それに関しては統括のほうでいかがでしょうか。

◎教育支援指導主事（牧原 雅） はい、本当に今ご指摘いただいた点も教育支援指導主事の会合で、やはり共通の課題として出されまして、そういった点で女の子が興味を持てるような、今、和田の向こうの公民館のほうへ検討をお願いをしたりしているんですけども、つるを使ってのかが作りですとか、女の子たちも興味を持てるような講座を設定をしたいというふうに考えています。

本当に大切なところだと思っております。

◇教育委員（三浦弥生） ご検討いただいているありがとうございます。

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございました。

ほかいかがでしょうか。

◇教育長職務代理者（北澤正光） 最後の部分のスクールソーシャルワーカーも一緒に入っていたいてというこの枠組みもとても大切だと思います。昨年まで私も学校で保護者や子どもたちとかかわり、子どもサポート会議や要対協の実務者会議に出たりしていました。あるお子さんの様子について、いろいろな課題が出てきて、状況もわかるのだけれど、では具体的にこちらがその家庭のお子さんや保護者に関わっていくとなったときに限界がある。

そここのところに入っていけるのは、やっぱりSSW等でないと日常的に家庭の中のことまで関わって入ってはいかれない。こういうところで一層連携を深めて、情報共有して関わっていただける枠組みをつくっていくというのはとても心強いことだと思います。

○教育長（代田昭久） 私のほうから1つ質問で、ポツ3つ目の今後の子どもの居場所づくりにつなげていきたいと、この夏の体験活動でありますけれども、今始める前で大変恐縮ですが、教育支援連絡会議の中で、夏休み終わった後の半年で何かイメージがあったら教えていただきたいんですけども。

お願いします。

◎教育支援指導主事（牧原 雅） 今のは1回これ行った後の。

○教育長（代田昭久） 半年、何かうまくいったといたら、つなげていくイメージが何かあるんでしょうか。

◎教育支援指導主事（牧原 雅） ええ、先ほどちょっと触れさせていただきましたけれども、本年度はまず第1回目ということで、子どもたちの様子や要望によって、やはり各時期に応じてこういった場を増やしていきたいなあというふうにはまずは思っております。

そして、さらには先ほど申しましたような自分の地域に日常的に通えるというか、行ける場所をつくって行ってあげたいなあというのが次の段階で考えているところであります。

そういった点がコミュニティスクールをうまく活用したような形も含めて、そういった子どもたちが自分の能力、それから良さを発揮できるような、そういう場をつくってあげたいなあということでございます。

もちろんこの活動は、「どの子ども学校へ行かなくてこういう活動に来ればいいんだよ」とかそういう意味ではございませんので、学校生活に適應している子はもちろんですけども、その中でなかなかうまく適應できない子どもたちへの居場所づくりを考えるという。

もう少数派の子どもであってもやはり大切にしていきたい、子どもたちを何とか支援していきたい、そういう思いで取り組みたいということでございますので。

以上であります。

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございました。

決して急いで言っているわけではないが、せっかくやるなら成功の暁にはどんなふうなイメージになるのかを共有したいと思いますし、今言っていたように各地域には各地域でしかない資源もあるので、まずこれ遠山とエス・バードの座光寺、上郷地区かと思うんですが、それがコミュニティスクールと地域の方々が実践してくれれば、20地区または28の小・中学校でさらに広がっていけば、そのような選択がいろいろできれば、子どもたちの居場所の選択肢につながっていくんじゃないかなというふうに思っていますので引き続きよろしく願いいたします。

それでは、ほかにございませんでしょうか。

○教育長（代田昭久） なければ、今月の協議事項は以上とさせていただきます。

ご協議ありがとうございました。

---

## 日程第8 陳情審議

○教育長（代田昭久） 続きまして、日程第8 陳情審議。

今月の陳情審議はございません。

---

## 日程第9 その他

### （1）教育委員報告事項

○教育長（代田昭久） 日程第9 その他。（1）番、「教育委員報告事項」、教育委員の皆さんから報告事項あればよろしくお願ひします。

はい、三浦教育委員、お願ひします。

◇教育委員（三浦弥生） はい、お願ひします。どの教育委員さんもそうですが、卒業式、入学式のほうに行かせていただいております。まずその感想をお願ひします。

卒業式、卒業生も在校生、また、教職員の皆さん、地域の方々たちもということで、本当にそういった方々の心を感じるような良い卒業式に出させていただいております。

まず、入学式に関しましては、本当に小学校のほうは校長先生のごあいさつの小学校1年生、本当にかわいらしい皆さんたちの目線に立ったわかりやすいごあいさつをされていたところを見させていただきました。中学生のほうは私のほうで「良い入学式でした」というようなお話を校長先生にしましたら、「いや、何人か動いているそういった生徒もいます」というような形で、きちんと子どもさん一人ひとりを校長先生、ああいうところから

見てらっしゃるんだなあというところで、校長先生それぞれのそういった視点というものを  
見せていただいた、そんな入学式でもありました。

最後もう1点ですけれども、3月23日の日に「結いジュニアリーダー市長報告会」とい  
うことで、今年はジュニアリーダーさんの会がインフルエンザでできなかったとうことで、  
市長報告会という形で参加をさせていただいておりますので、そちらの感想を簡単に言わせ  
ていただきます。

職場体験を生徒さんたちが踏まえまして、働くことについて、いろいろ議論、お話のほう  
をまとめてしてくださっています。働く人のために何かすることの喜びであるとか、地域に  
貢献する、やらされているのではなくて、自分でやるというそういった姿勢を学べたとか、  
あと、自分が成長するそういったきっかけになったというようなきちんとした発表をいただ  
いております、きちんと職場体験で大きく学んで来られているんだなということを感じて  
おります。

心に残っていることはもう1点ありまして、来ている方の社会福祉協議会の中島さんのお  
話が心に残っております。生徒さんのお話の中で、「働くということはお金のためかと思っ  
ていましたが」というようなそんなような発言がありました。そんなことも踏まえて、社会  
福祉協議会の中島さんという方がこんなことをおっしゃられていまして、「ぜひお金を嫌い  
にならないでください」ということを言われておりました。「働くということは何をおい  
ても生活のためで、家族を養っていくためにすることであるという基本的なところをぜひ押さ  
えていただきたい」というようなお話でして、「働くことで納税というものがあって、そう  
やって働いて納税されたことで地域貢献、社会貢献につながっているので、そんなことも忘  
れないでくださいね」と言われたことが私自身心に残っております。生徒さんたちの良い発  
表の中に、やはりこのお金や経済に関する部分がやはり少し不足しているのかなというこ  
ろも感じました。

あれだけのまとめができる中学生の皆さんでしたら、経済がこういった形で、収支とい  
いますか、お金がだいぶ掛かって、それをこのように運営して、これだけ動きがあって、そ  
こで給与がこんな形で出ているといったそういうような形のお話があってもきっと立派に吸  
収してくださるんじゃないかなという、そんなようなことも感じながらこの方のお話をちょ  
っと聞いておりました。私の感想です。

以上です。

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございました。

ほかにかがでしょうか。

伊藤教育委員、お願いします。

◇教育委員（伊藤 昇） 報告事項というよりも感想ですけれども、前回の定例会の教育委員報告事項の中で、小澤教育委員と三浦教育委員がくしくも同じところに触れていたんですけれども、公民館大会のときに第5分科会に行ったときに、公民館の行事をなさされている方たちが多い中でコミュニティスクールというものをほとんど知らなかった、コミュニティスクールのぼやっとした内容もさることながら、コミュニティスクールのコの字も知らなかったようなことをおっしゃっていたので。これ3年になりますけれども、まちづくり委員会の中で公民館のことを携わっているというのは社会教育もあるし、ある意味でまちづくり委員会とも一番近い、一般の方で一番近い存在の方ではないかと思うんですね。その方が3年間やっていたコミュニティスクールを知らないというのは、やはりちょっと我々教育委員会としても非常に何だったかなあという思いがあります。

これどうしたらいいかということなんですけれども、これはちょっと1つのあくまで私のヒントなんですけれども、深い内容は深掘したわけじゃないですが、この前、小澤教育委員がおっしゃっていた北海道ですかね、PTAじゃなくてPTCAと言っていましたね。

PTAというと我々の世代が一番多いんですけれども、知らない方、学校に興味ない方、関心ない方でもPTAって知らない方いないので、ペアレントとティーチャーと云々ということなんですけれども、そこにPTCA、コミュニティが入るという、この入り口としては何かそんな入り口から入っていくと非常に一般の方にもわかりやすいのかなあと。中身の話じゃなく入り口として。

それは先ほどの体験学習にしても、いろんなことに応援してもらわなきゃならないわけなんですけれども、やはりここはちょっとてこ入れをしなくちゃならんのかなあとそんなふうに感じました。

以上です。

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございました。

ほかにはいかがでしょうか。

北澤教育長職務代理者、お願いします。

◇教育長職務代理者（北澤正光） 今の伊藤教育委員のお話の逆のような話なんですけど、私、遠山中学校の入学式に行かせていただきました。入学式の祝辞で、来賓で見えていた南信濃のまちづくり委員会の委員長さん、牧島さんという方ですけど、ご祝辞を言われた中にちょっと胸に詰まるというか、感動的なお話をされていてとてもありがたいし、子どもたちを本当に支えようとしてくれているんだなあというお話がありました。

自分のメモで言うと、「中学の入学式が自分も50年前にあった。その真新しい学生服に袖を通したときのおいを今も思い出す」と、「ただ、そのときは気にもとめていなかったけれども、今になってくるとそれを整えてくれた人の心遣いがとてもしのぼれる」というようなことをおっしゃりながら、「仲間や先生を信じて生活してほしい」、「新しいかばんに夢や希望をいっぱい詰め込んで登校してほしい」とおっしゃられた後に、「地域の宝である中学生を私たちは全力でバックアップします」という力強いお言葉があった。この方もコミュニティスクールの遠山地区の委員の1人になって実践していらっしゃる。

地域の方から子どもたちに向けて、応援していくので頑張ってもらいたいというような力強いお話をしてくださっているところもあるということで、そういう皆さんもだんだんに増えてきているというところを受け止めていきたいと思いました。

もう1つは、さっきもありましたキャリア教育の発表会、市議会の議場で行われたのですが、議員さんの席に中学生たちがついての発表会だったので、最初は見ると緊張して座っていました。あの議場のピンと張り詰めた中、大勢の人を前に自分の感想や意見を言うという体験そのものが、既に彼らにとってキャリアアップにつながっているのではないかと感じて、ああいう「実の場に子どもたちを立たせる体験」というのはとっても大事だということを感じました。

内容も子どもたちは、本当に感性豊かな感想を語っていました。その中で、「人とのつながりがとっても大事だということを知った」というのが多くの子どもたちからあって、「そのきっかけはまずあいさつ」なんだ。「だから、あいさつをしながら地域の人と自分たちはつながっていききたい」というふうに中学生の側も受け止めている。私たち大人の側もしっかり受け止めて、せめてあいさつだけはしっかりしたいと思いました。

以上です。

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございました。

各委員の皆さんに感想等、発表願えますでしょうか。

じゃあ私のほうから。伊藤教育委員と北澤教育長職務代理者のほうからコミュニティスクールの話が出ましたけれども、まさに伊藤教育委員からありましたように、3年目なのでここは気合いを入れるということは逆だな、ちゃんと分析しながらやらなきゃいけないなと思っています。要は、「みんな知らんに」と言ったら大体知っているんですよ。要は、「知っているんですよ」というのはこれはちょっとあれか、そんな言い方はないわけですよ。ええ、やっぱりだれか知っているわけで。

どういう人たちが何がわからないのかというふうな形でしっかりとこちら側も分析しん

と、「みんな知らん」、「みんなは知らんに」と言ったらまだまだ難しいですよ、市民全体で。

三鷹市のアンケートを見たことあるんですけど、三鷹市でさえコミュニティスクールを知っているかというのは、すみません、これ後で訂正するかもしれない、2割くらいだったと思います。要は、全員が知る必要ってあまり逆にはなくて、ただやっぱり地域の方々、それは初年度からということですね。やっぱりやって携わっている人が正確に理解していくというのが、まずここ黎明期の一番大事なところかなあというふうには思っているんで、そのためにはどういう説明の方法がいいのか、文字じゃなくて直接説明する場はちゃんとあるのか、説明するツールはそろっているのか、まあそういうところをちょっとしっかりと。

まさに企業がマーケティングして商品を打つように、広告を打つようにやっていかなきゃいけないなあというふうには思っているんで、ぜひ保護者の立場、また違う立場で委員さんのアイデアをいただく、そんな1年にしていきたいなと思いますし、実際に議会で「みんな知らんに」と言われるとかなり私も残念なので、そんな発言が少なくとも出ないような1年にしていきたいというふうに、ある種宣言としてやっていきたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

小澤教育委員、お願いします。

◇教育委員（小澤由美子） すみません、公民館大会のときに「みんな知らんに」と言ったんですけども、コミュニティスクールとかそれに携わっている公民館長さんとか、まちづくり委員会の長の方とか、実際に動かしている方々はもちろんご存じなんですけれども、その公民館に実際に下で動かしている体育委員さんとか広報委員さんとか、この間、公民館大会に出た人たちが知らないんですよ。

なので、その方々にどう知っていただくかというのが大事だなというのと、でも、その方たちは私が体育委員に所属しているときも、子どもたちをもうちょっと受け入れようとか、子どもたちに出てもらえる行事を増やそうという意識が結構高いので、そこを上手にコラボするとうまくいくんじゃないかなという思いがあります。

○教育長（代田昭久） ぜひまた気がついた点があったらいろいろご指摘いただけたらなあというふうに思います。

よろしくお願いいたします。

ほかにご意見ありますでしょうか。

（発言する者なし）

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございました。



---

## (2) 教育次長報告事項

○教育長（代田昭久） 引き続き、教育次長報告事項お願いいたします。

◎教育次長（今村和男） 今日はありません。

---

## (3) 学校教育課報告事項

○教育長（代田昭久） 続きまして、学校教育課報告事項お願いします。ICT教育の推進について。牧教育指導主事お願いします。

◎教育指導主事（牧 友博） お願いします。それでは、資料No.2「ICT教育の推進について」ご説明いたします。

平成31年度の取組として、主に二つの取組を考えています。

1つ目は、飯田市固有の教育課題に対するモデル3中学校区でのICTを活用した教育活動の実践と実証研究の深化です。

環境整備の進捗状況等を考えると、この取り組みをすぐに市内全校に展開するということは難しいわけですが、今後環境が整ったときに市内の学校がこれらの取組から学び、学習活動に生かせるよう、実証研究と実践事例の蓄積に取り組んでいきます。

同時に、市内全中学校の全校の、主に電子黒板、デジタル教科書を中心としたICT活用の展開に取り組んでいきます。

大きな2の「平成31年度の具体的な取組」についてですが、(1)の教員の指導力の向上と支援体制の整備について、今年度、2点新たに追加させていただきました。

1つ目は、(1)①のアですが、今年度は授業参観を含めた学校訪問を市内全校を対象に実施し、各校のICT活用の状況、課題、必要な支援等を把握し、学校支援に生かしたいと考えています。

2つ目は、(1)①ーイの2つ目の丸ですが、2020年度より必修化される小学校プログラミング教育について、市内全小学校の担当者を対象とした研修等、校内研修支援を行い、各小学校で来年度に向けた準備が進められるよう支援していきます。

(2)のICT環境整備と大きな3のスケジュールについては、裏面資料1・2を使って説明させていただきます。裏面資料1、ICT環境整備計画案をお願いします。

(1)の①学習者用タブレットPCについては、市内全校に1クラス分のタブレット端末が配置されるという状況に整える予定です。②の電子黒板について、小学校には既に3～6年生の普通教室に配置されていますので、新入学した中学1年生が継続して電子黒板やデジタル教科書を活用した授業を受けられる、そういった環境整備として中学校1・2年生の普

通教室に導入したいと考えています。

(2) ①のデジタル教科書については、小・中学校ともに電子黒板が配置されている教室で、小学校は4教科、中学校は5教科の資料を学校に整備します。②のプログラミング教材について、今年度、十分な教材購入というのは難しいわけですが、特に費用が掛かることが予想される理科で使用する教材について、教育委員会で一括購入して配布する予定です。

3の校務用端末についてはお読みください。

資料2の年間スケジュール(予定)ですが、ここまでお話をさせていただいた今年度の環境整備について、おおむね6月末までに終了し、7月から学校で活用できることを目標にして準備を進めたいと考えています。

以上、説明を終わります。

○教育長(代田昭久) はい、ありがとうございました。

続きまして、外国語活動英語教育の取り組みについてお願いします。

◎教育指導主事(塩澤裕美子) はい、お願いいたします。

○教育長(代田昭久) 塩澤教育指導主事、お願いします。

◎教育指導主事(塩澤裕美子) それでは、資料のNo.3をごらんください。

外国語活動・英語教育では大きく2つ、教育指導主事による授業づくり支援とALTの派遣業務を行ってまいります。

1つ目の授業づくり支援では、全小学校に1学期から複数回、中学校には1学期内に1回学校訪問を行い、授業を参観したり、ともに授業づくりを行ったりすることを通して、特に小学校では担任や専科教員など、外国語教育に携わる先生方の指導力向上や校内の体制及び環境づくりをともに取り組んでまいります。

学力向上結びプランとも関連するねらい・メリハリ・みとどけの観点、レッスンゴール、トゥデイズゴールの提示や毎時間の振り返りを授業に位置づけることは昨年度に引き続き大切にできるようにしながら、今年度はさらに言語活動の楽しさを味わえるためのスモールトークを授業に位置づけられる支援を行ってまいります。

複数回の訪問の中で、先生方と取組の積み重ねを大切にしていきたいと思います。また、中学校においては、1年生への入門期指導を含めた小中接続のあり方の工夫や、次期学習指導要領2021年度完全実施に向けた授業改善をお願いしてまいります。

2つ目のALT派遣業務について申します。ALTは、今年度1名増員していただき10名となりました。派遣の頻度は、おおむね小学校3・4年生は2週間に1回、5・6年生は1週間に1回、中学校では1学期あたり1週間に1回の訪問予定です。勤務時間は、原則小

学校8時15分から16時15分。中学校8時～16時となっておりますが、それぞれ学校の実情に応じて前後させていただくようになっております。

先日、実施された外国語教育、ALT担当者会で勤務等の決まりについては先生方とハンドブック等を共有しながら理解を図ってまいりました。

小学校の先生方には、実際の授業に生かされる授業案を立て、各学校で蓄積し、教育委員会と共有させていただくもの、また、ALTと打ち合わせ時間を生み出し、先生方が授業をリードしていただけることをお願いしてまいりました。

先生方向けの研修の機会を夏休み中に信州大学の酒井英樹先生を講師で行う予定のほか、教材や活動の共有の場で、校内外でできる研修を計画してまいりたいと考えております。また、ALTとのティームティーチングの充実を図るため、ALT向けの研修も計画してまいります。

先生方には、電子黒板等、ICTの環境整備及び活用、ALT活用についてのアンケートでの情報提供、本来の研究授業についての情報提供をお願いしたいと思っております。

授業については、互いに学び合える機会を増やし、飯田市全体でアイデアや教材が共有できるように公開日時等を連絡していただくようお願いしてまいります。

インフルエンザなど感染症等によりALTの勤務に支障がありそうな場合は、教育委員会とALTに連絡をお願いをしていくこともお伝えしてまいります。

本年度は、小学校新学習指導要領移行期間2年目となります。市内の小学校は3・4年生が35時間、5・6年生は70時間の外国語教育を実施できるよう、各校で確実な時間数の確保をお願いし、連携を取ってまいりたいと考えております。

以上です。

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございました。

続いて、「平成31年度飯田市校長会・教頭会への依頼委員と校長会主導委員会・教頭会プロジェクトの組織図」についてお願いいたします。

高坂学校専門幹、お願いします。

◎学校教育専門幹（高坂 徹） 資料No.4-1、横になっておりますがごらんください。

左下のラインボックス内の校長会のところではありますが、1～17番の委員会で校長先生方に委員を依頼いたします。また、今年度の校長会主導委員会は、従来からある教育問題検討委員会、幼保小連携推進委員会に加え、新たに部活動あり方委員会、特別支援教育推進委員会を立ち上げる予定です。

なお、昨年度までの小学校英語準備委員会、ICT活用ワーキンググループの活動につき

ましては、学びサポート研修会に衣替えし研修を深めてまいります。

また、右下の教頭会議は、1～10の委員会で教頭先生方に委員を依頼いたします。

教頭会調査研究プロジェクトにつきましては、現在、開設希望調査及び所属希望調査を行っております。資料の表と若干違っておりますが、学力向上、部活動のあり方、L G（地域・地球）飯田教育、コミュニティスクール、ICT教育、道徳教育、外国語教育の7つの中から5つ程度のプロジェクトを開設する方向で調整中です。

続きまして、次のページ、資料No. 4-2をごらんください。選出をお願いする委員の案です。よろしくお願いいたします。

以上です。

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございました。

続きまして、「平成30年度副学籍の状況について」をお願いします。

◎学校教育専門幹（高坂 徹） 教育長。

○教育長（代田昭久） 高坂学校教育専門幹、お願いします。

◎学校教育専門幹（高坂 徹） 資料No. 5をごらんください。『副学籍』による交流及び共同学習の推進について」です。

飯田市では、インクルーシブ教育を進める立場から、平成28年度より副学籍制度導入しております。

下段、3の「成果と課題」にありますように、昨年度末に行ったアンケート調査では、在籍校、副学籍校、保護者からそれぞれ高い評価をいただいております。副学籍制度を利用する児童生徒だけではなく、副学籍校の児童生徒たちや教職員にとっても中身の濃い交流や共同学習が行われていることがわかります。

課題として、幾つかの点がございしますが、改めて教職員への研修や保護者への丁寧な説明を設けることで、副学籍制度の周知を図ると同時に、飯田養護学校などの在籍校を中心に、受け入れ側の副学籍校と保護者の方との連絡調整がよりスムーズに行えるよう支援をしてまいりたいと考えております。

なお、上段は、平成31年度の副学籍制度の利用状況をまとめたものになっております。利用者数、副学籍校数は昨年度とも同じですが、小学校1年生に限りますと、昨年度が3名中3名の利用、100%でしたが、今年度は6名中1名の利用、率で16.7%になっております。このことにつきましては、意向調査を行っていないために理由のほうに関しては不明でございます。

以上です。

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございました。

---

#### （４）生涯学習・スポーツ課関係報告事項

○教育長（代田昭久） 続きまして、「生涯学習・スポーツ課関係報告事項」お願いします。

北澤生涯学習・スポーツ課長、お願いします。

◎生涯学習・スポーツ課長（北澤俊規） 教育委員さんのお手元にやまびこマーチのパンフレット、冊子が入っていると思います。また、連休の初日、２日と開催されますので、何回か教育委員会ではご報告させていただきましたけれども、ぜひご参加、あるいは、またご承知置きをいただいでよろしくお願ひしたいと思ひます。

以上です。

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございました。

---

#### （５）公民館関係報告事項

○教育長（代田昭久） 続きまして、「公民館関係報告事項」、お願いします。

◎飯田市公民館副館長（秦野高彦） 今回はありません。

---

#### （６）文化会館関係報告事項

○教育長（代田昭久） 続きまして、「文化会館関係報告事項」、お願いします。

棚田文化会館長、お願いします。

◎飯田市文化会館長（棚田昭彦） それでは、３１ページの「人形劇のまちづくり」推進に関する取り組みについて」ご報告します。

３１年度事業の概要でございますが、要点をちょっとご説明します。

１つは、人形劇の公演事業でございますが、「人形劇を鑑賞できるようになること」としまして、いいだ人形劇センターの公演事業としまして定期公演、あと鑑賞事業、あとアウトリーチということで、それぞれの部分で鑑賞する機会を設けたいということとなります。あと②番でございますが、小学校、保育園等を対象としました巡回公演事業等も考えております。

２番でございますが、人形劇創造支援事業としまして、「見るだけでなく、演じることを楽しめるようになること」というようなことを目的としまして、主な取り組みでございますが、いいだ人形劇センターの創造事業としまして、いいだ人形劇センタープロデュースの人形劇、あと人形劇の講座、あと人形劇の基礎レッスン、体験ワークショップなど、このよ

うな事業で創造事業を推進していきたいということを考えております。

②番で、子どものための人形劇活動支援事業でございますが、学校等で行われます人形劇活動への指導者を派遣することを考えております。

③番でございますが、地域社会に貢献する人形劇活用事業ということで、平成31年度からの新規事業でございます。今までの「みる」や「演じる」「ささえる活動」の支援だけではなく、いわゆる「まちづくりの核となる施設」という側面から、地域の発展やくらしづくりにつながる、貢献できる活動をということで、本年度から取り組む内容でございます。

2ページ目をごらんいただきたいと思います。事業の枠組みとしまして、人形劇を活用して、観光や産業が元気になるプログラムとか、あと学習プログラム、あと障害者の方とか高齢者等の社会参加支援に向けた社会包摂プログラム、このようなことを進めていきたいということで、31年度では飯田の古墳群や恒川遺跡を題材にした人形劇制作に向けた講座、ワークショップ、あと飯田の民話を題材にした人形劇脚本の収集、あと観光ツアー向けの実演ボランティア・インストラクターの要請講座などを想定しております。

3番でございますが、飯田人形劇フェスタでございまして、7月の31日から8月の2日、開催をする予定となります。

4番でございますが、伝統人形芝居振興事業としまして、今田・黒田人形の関係の支援を行っていきます。

5番は、関連します人形施設の管理運営でございまして、竹田人形館、川本人形美術館となります。

6番でございますが、人形劇のまち国際化推進事業としまして、AVIAMA総会や南あわじ市との交流等を加えまして、世界の人形劇のいわゆる「小さな世界都市」飯田市としての情報発信を強化していきたいとするものでございます。

3ページをごらんいただきますと、この推進する取り組みについて、その他、人形劇のまちづくりを推進する取り組みとしまして、「人形劇のまち飯田」の運営協議会の開催とか、あとNPOのいいだ人形劇センターの活動支援、③番では、図書関連の活用に関しても取り組む、あと、とけい塔の管理等でございます。

あと、本年度、文化庁の補助金を30年度から32年度にわたりまして、支援を受けながら引き続きこれらの活動に充当して進めていきたいと考えています。

あと、4月・5月の予定はごらんのとおりになっています。

以上です。

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございました。

---

## (7) 図書館関係報告事項

○教育長（代田昭久） 続きまして、「図書館関係報告事項」お願いいたします。

瀧本中央図書館長、お願いします。

◎中央図書館長（瀧本明子） お願いいたします。資料No. 7をごらんください。

図書館では、本年度も赤ちゃんから高齢者までのそれぞれの年代に応じた読書活動の推進に取り組んでまいります。

これからの予定ですが、こちらにも書いてございますが、本年度も飯伊婦人文庫さんと共催で郷土の歴史を取り上げたものや「徒然草」や夏目漱石に関する内容などで5回の文学連続講座を開催します。

それから、今月4月23日は、子ども読書の日です。23日から5月12日までが子どもの読書週間と定められていますので、この機会に図書館や読書に親しんでいただく取り組みを行ってまいります。

中央図書館では、図書館探検ツアーというものを企画しまして、普段は見ることのできない書庫、また、図書館の中を案内して、その後、クイズに挑戦してもらいながら図書館に親しんでいただく行事。それから、それぞれ県図書館、上郷図書館、各地区の分館でも絵本の読み聞かせを中心としたお話の会ですとか、地区ごとに図書館ビンゴやスタンプラリーを行って、子どもたちに図書館に足を運んでもらう行事を考えております。

以上です。

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございました。

---

## (8) 美術博物館関係報告事項

○教育長（代田昭久） 続きまして、「美術博物館関係報告事項」、お願いします。

池戸美術博物館副館長、お願いします。

◎飯田市美術博物館副館長（池戸通徳） はい、お手元に薄緑色の用紙をお配りしました。今日、入ったニュースというか情報をお届けします。「第35回民族芸術学会大会（飯田）のご案内」であります。これは飯田市美術博物館を会場提供しまして、主催は、民族芸術学会という全国組織でございます。組織のことは中に書いてありますのでごらんください。

今回は、テーマを「民族芸術と『地域』」ということで、今までは東京・大阪・京都、あるいは札幌等、大きな大都市圏でやってきたことでありましたけれども、今回は飯田ということで選定をしていただきました。その理由は、ボックスの中の下3行だと思います。

「飯田の地は菱田春草や柳田國男との関係性を通じて、日本美術史や民俗学などのゆたかな学問的拡がりの拠点であり、この地に集うことで諸藝術のクロスオーバーをする議論の場が生まれることを期待している」と、このとおりにかというふうに思いますけれども、美博でも大歓迎でございます。

今日入ったニュースというのは、一般参加についてお許しが出たということでもあります。大会実行委員会のほうから、「ぜひ一般参加いかがでしょうか」ということで、このような内容で届けがされました。

後ろには2日間にわたるプログラムがありますし、このシンポジウム、そして一般発表、一般参加で参加できるということが、情報が入りましたので皆様方にお届けする次第であります。よろしかったらお越しくださいませ。よろしく申し上げます。

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございました。

---

## （9）歴史研究所関係報告事項

○教育長（代田昭久） 続きまして、「歴史研究所関係報告事項」をお願いします。

小椋歴史研究所副所長、お願いします。

◎飯田市歴史研究所副所長（小椋貴彦） 歴史研究所から報告をいたします。

資料No. 8のところではありますが、2月・3月の歴研ゼミ・ワークショップの報告を記載していますのでごらんいただきたいと思います。

その次のページには、3月9日に行われました「地域史講座 山村の景観と木材利用」の結果をまとめてございますので、後ほどお目通しをいただければありがたいです。

最後のページでございますが、3月16日に行いました「飯田アカデミア86講座」、「歴史をともに学ぶこと、歴史を綴ること」ということでございます。こちらのほうは委員さんのほうに回覧をさせていただきましたが、実際に現職の教員の皆さんが中心となって作っていただいた歴史教科書の作成の経過といったものが主な話であります。

本来は、大学の研究者が書いて、現場の先生がチェックするという形を多くの教科書がとっているわけですが、この教科書については、本当に先生方、あるいは元先生方が中心になって執筆をしています。子どもたちの立場に立って通常あるような時系列的に歴史を並べるだけではなくて、まず結果をどーんと出しておいて、その後で、「どうしてこういう結果になったのか」というのを子どもたちが自分たちで考えられるような、そういう工夫を凝らして作ってきたというお話もありましたのでご参考にしていただければと思います。

それから、お手元に「歴研ニュース99号」をお配りしてございますので、併せてごらん



をいただきたいと思います。その歴研ニュースの中にも刊行物の告知がございますが、「飯田・下伊那の歴史と景観」という、今教育委員さんのお手元にお配りしてございますが刊行されております。こちらについては、いわゆる文書の調査ということではなくて、飯田・下伊那の景観や建物について焦点を当てて研究したものであります。英語で表記してある部分については、海外からの方の歴史ガイドブック的なそういう効果を狙ってということで作ってございます。またご一読いただければと思います。

同じく、歴研ニュースの最後のページでは、明日4月13日ですが、地域史講座「近世座光寺村の生活と組」、それから、その上にアカデミアの6月の講座のご案内がございますので、もしご都合つけばお越しいただければありがたいと思います。

説明は以上です。お願いします。

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございました。

ただ今、学校教育課から歴史研究所までの報告事項に関する説明がありましたけれども、何かご質問ご意見等ありましたらよろしく願いいたします。

はい、北澤教育長職務代理者、お願いします。

◇教育長職務代理者（北澤正光） 資料3についてです。外国語教育の推進に関する取り組みという、さっきご説明いただいたところで、ALTも1名増員され、なおかつ教育指導主事も配置できるということで、だいぶ充実して、ありがたい方向に進んでいると思います。昨年まで私も学校現場の教科研究に関わってきた経過の中で、学校現場の先生から、特に中学校の英語科の先生方から出ているのは、ALTと十分に事前の打ち合わせができないまま、結局本時の授業をせざるを得ない状況がある。お話を聞くと現場の先生方もとても歯がゆさを持っている。もうちょっと綿密に打ち合わせをして授業に向かいたいのだが、学校の先生方の状況からすると、例えば当日の朝、ALTが見えても、担任としてクラスの朝学活に行っているというようなこととか、本時の前までにほかのクラスの授業が立て込んでいて、実際の授業についての打ち合わせは立ち話程度でやって本時が来てしまうというようなことがある。

小学校の場合も学級担任がずっと朝から教室に関わりっきりになってしまっているので、事前の打ち合わせがうまくできない。結果として、力のあるALTに任せる時間が長くなってしまいか、逆に担任がほとんど主導してしまって、ALTの出番が少ない時間になってしまう。

どっちにしてもせつかくのALTの力を十分に活用しきれない授業になってしまうということについて、現場の先生方が反省も含めて歯がゆさを訴えられていることを何回か聞いて

ているので、そんな点で何かご工夫はありますかという質問と、今年進めていくにあたって配慮をいただいて、せっかく充実した陣容をぜひ活用していただきたいというお願いです。

以上です。

○教育長（代田昭久） 塩澤教育指導主事、お願いします。

◎教育指導主事（塩澤裕美子） 今年度考えております工夫、先生方にお伝えしたものといたしましては、小学校の外国語の教育に関しまして、できる限りの前の週までの授業案をALTと共有していただいて提出していただき、1週間前からALTが次の授業に向かって準備をし、先生方も準備をして、当日短い時間であっても1週間掛けたものが共有できるように。あるいは勤務時間を前後することで、学校の実情のうちで一番いい時間の打ち合わせ時間を何とか確保していただくようにということをお願いを先日しましたけれども、今年度、学校訪問の懇談の場面で、それぞれの学校のお困りになっていることを具体的にお聞きして、ALTとも個別に話をしながらよりよいものを探っていきたいと思っております。

また、中学校の先生方も非常にお忙しい中、指導案の提出という点はお願いはしておりませんけれども、空き時間のALTの過ごし方や、また、ALTのアイデアも聞きながら、よりよい打ち合わせができる方向を探っていくということ、今はちょっと考えられておりませんが進めてまいりたいと思います。

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございました。

ほかにはいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

（発言する者なし）

○教育長（代田昭久） はい、それではご承知置きのほどよろしくお願いたします。

---

## （10）今後の日程について

○教育長（代田昭久） それでは今後の日程について。

滝沢学校教育課長補佐、お願いします。

◎学校教育課課長補佐（滝沢拓洋） それでは、レジュメの3ページをごらんいただきたいと思っております。

（10）の今後の日程につきまして、飯田市の教頭会・校長会の日程、それから、教育委員会として大きな事業となります「やまびこマーチ」「オーケストラと友に」の日程を掲載してございますが、詳細につきましてはご案内があったかと思っております。

次の定例会は、5月16日の木曜日に予定しております。

なお、細かな日程につきましては別冊を用意してありますのでごらんいただきたいと思

ます。

以上です。

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございました。

本日の日程、一通り報告事項等、協議事項等終わりましたけれども、その他、何かご発言  
ある方いらっしゃいますでしょうか。

よろしいでしょうか。

（発言する者なし）

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございました。

---

## 日程第10 閉会

○教育長（代田昭久） 日程第10、以上をもちまして、本日の定例会を閉じさせていただきます。

どうもありがとうございました。

---

閉会 午後3時42分